一宮西高新聞

発行所
愛知県立一宮西高新聞部
一宮市萩原町串作河田1
電話一宮（68）1191
株式会社 大東社
電話一宮（62）1168

卒業おめでとう

新しい門出に心からの祝福を

校長　鈴木　英史

卒業おめでとう。心から祝福します。しかし、私の餞（はなむけ）の言葉は、皆さんが「業を卒えた」ことへのお祝いではなく、むしろ新しい門出へのお祝いなのです。

アメリカ合衆国では、卒業式をCommencementといいます。これは開始、始めること（Beginning）を意味します。つまり、「業を卒える」ということではなく、今日まで学んだことを基礎に今までと異なった学習を開始することを意味するのです。

皆さんは、これから新たな未知の社会・未知の人生を歩んで行くことになります。私たちの社会は猛スピードで変革しています。恐らくこれからの人生は、誰にとっても予測しがたい未知の世界です。学習を怠ると、瞬く間に社会から取り残されることになります。

皆さんが、どんな素晴らしい教育を受けて来ても、今まで学んで来たことは、その後の人生で学ぶ1割にも満たないと思います。ですから生涯を通じて学んで行こうとする不断の努力が求められているのです。

そこで、皆さんの門出に際し、次の言葉を贈ります。

◎健康・安全であれ
健康は全てではないが、健康を失うと全てを失います。体を鍛え節制の日々を。

◎心の豊かさと思いやりを
いくら財（富）を得、知的に優れていても、人倫にもとれば堕落する。他者への感謝の念と思いやりを。

◎能力・適性に合った仕事の発見を

◎生活にゆとりを
人生あくせくせず、スポーツ、レクレーション、芸術等に親しむ心のゆとりを。

◎良い友達を
人の世には潮時がある。満潮に乗じさえすれば成功をもたらすが、仮りに、こいつを捕らえ損なうと、一生の航海は、不幸続きの浅瀬に閉じ込められる。

今、丁度満潮の海に浮かんでいる。（シェクスピア、『ジュリアス・シーザー』より）

人生の満潮時にいる皆さん、力強く船を漕ぎ出して下さい。限りなき可能性を秘めた人生行路に幸多かれと祈ってやみません。

風に向かって立つ

3年学年主任　南谷　守

3年生諸君、卒業おめでとう。心から祝福する。諸君が卒業までの間に積み上げた成果を讃えると共に、贐の言葉を贈りたい。

正直、進路が確定していない今はまだ、卒業という言葉に実感が湧かないかもしれない。併し、この時に至って、諸君が思うことは、他の何にもまして、卒業までの道程の険しさではないだろうか。3年前、桜の花降る中、正門をくぐり、西高生活が始まった。それは同時に、それまでの「自分」との決別でもあった。戸惑い乍も、諸君は「新たな自分」を築くべく、学習に、部活に、行事に取り組んだことだろう。そして、今はっきりと分かる筈だ。西高生活の全てが『本当の自分』に気付くための過程だったのだと。西高以前の自分は、所詮、未熟な自分が作り出した幻影に過ぎず、西高は砥石が如く諸君の纏う虚飾を削ぎ落としてくれたのだ。素の自分が露わになる過程は時に痛みを伴ったことだろう。その素の自分が、自他共に一つの理想的姿と思い込んでいた自分とは懸け離れていたことに愕然としたこともあったことだろう。併し、そのヒリヒリする程に剥き出しになった自分も、豆が繰り返しつぶれて丈夫な手になるように、経験が何層にも積み重なり厚みを増したのではないだろうか。3年生春の高校総体では尾張地区の女子総合優勝、男子総合第二位と素晴らしい結果を残した。以前ならすぐ折れていた心も、たわみながら持ち堪える丈夫な心になっていたのだろう。（勿論、2年生、1年生の力も加わってのことを忘れてはいけない。）その後の学習中心の1年間を諸君が乗り切り自分の進路実現に立ち向かうことが出来たのは、こうした過程を一つひとつ経たからなのだ。これが、西高を卒業するということであり、西高生活を全うした者が果たし得る、真の自己実現なのだ。

さて、新たな世界へ旅立つ諸君に言っておきたいことがある。敢えて風に向かって立て。風を背に受けるのは、大して自分の力を使わずに前に進めるので楽そうではある。しかし、自分が手に入れたいものも向こうへと飛ばされてしまい、結局、手に入れられないものなのだ。反対に、風に向かうと、押し返されそうになりながらも、足で踏ん張り少しずつ目標へ近づくことが出来る。目標を見定めてさえいれば、目標のほうから転がってくることもあるのだ。風に向かって立つことは、それに耐えることが出来る者に必ずや報いてくれる。今の自分に思い上ることなく生きる――諸君に期待するところである。

論説　ゆるキャラとインビジブルドン現象

ひこにゃん、くまモン、バリィさん・・・。誰もが一度は聞いたことがある名前だと思う。日本ゆるキャラグランプリで優勝してきたキャラクター達だ。この辺りの地域でゆるキャラといえば、いちみんやいなッピー、はち丸、あいさいさんなどが有名なのだろうか。

そもそもゆるキャラとは、「ゆるいマスコットキャラクター」を略したもので、そういったかわいらしいイラスト全般をさす場合もある。「ゆるキャラ」という名称は、漫画家・エッセイストであるみうらじゅん氏が考案したとされ、みうら氏も自分が命名者だと自認している。また、氏はあるキャラクターがゆるキャラとして認められるための条件として、「郷土愛に満ち溢れた強いメッセージ性があること。」「立ち居振る舞いが不安定かつユニークであること」「愛すべき、ゆるさ、を持ち合わせている事。」の三つを挙げている。以上の事から考察すると、ゆるキャラに関する氏の想定は「地域の村おこし・地域振興のためのキャラクター」である。

しかしここで、全てのご当地キャラクター＝ゆるキャラ、という勘違いが広まってしまった。ご当地キャラクターがゆるキャラでなくてはならない、というルールはどこにも無い。あくまでご当地キャラクター＞ゆるキャラなのだ。

ところが、今はもはやゆるキャラでないご当地キャラクターを探す方が難しい。日本でゆるキャラの人気が出始めてからというもの、日本全国、どこを巡っても出会うご当地キャラクターはゆるキャラばかりである。大のゆるキャラ好きである私にとっては嬉しい限りなのだが、ゆるキャラでないご当地キャラクターを見ることができないのかと思うと、少し複雑な気分にもなる。

これを、「ウィンブルドン現象（経済の方ではない）」のようである、と著したのが、漫画家である久米田康治氏である。ここでいう「ウィンブルドン現象」とは、「もともとイギリス人のテニス大会だったものを外国人選手の参加を認めたところ、集まる選手がほとんど外国人になってしまった」という史実をもとにしたものである。氏は自身の漫画「さよなら絶望先生」の中で、「これはウィンブルドン現象ですね。自治体のイメージキャラクターがゆるキャラばかりになってしまった。」としている。つまり、ご当地キャラクターというくくりの中にゆるキャラというくくりができたところ、ご当地キャラクターがゆるキャラばかりになってしまった、ということだ。そしてこの現象はなにもゆるキャラだけに限ったことではない。

私はゆるキャラについてああだこうだと文句をつけるつもりは無いし、ご当地キャラクターについてそう真剣に悩んだことも無い。しかし、今のご当地キャラクターは「ゆるキャラ」という概念にとらわれすぎていると思うのだ。ご当地キャラクターを考案する際に、ゆるキャラはもはやその模範のようになってしまった。しかし、かの有名なヴィンセント・ヴァン・ゴッホは次のような言葉を残している。

―「あなたのインスピレーションやイマジネーションを抑えてはならない。『模範』の奴隷にならぬように。」―

たまには型破りなことをしてみるのもいいのかもしれない。その先にあった発見は、きっとたがらぬ喜びをもたらしてくれるだろう。

（渡邉花織）

心を込めて三年生を送る

1月25日稲沢市民会館で予餞会が開かれた。どのクラスも3年生の先輩に向けて素晴らしい演技を贈った。今回はそんなみんなの頑張りを紹介していこうと思う。

1の3「Sing for you」。今年は合唱のエントリーが1クラスしかなく、予餞会は劇のみになってしまうのではないかと思ったが、1の3は素晴らしい歌声で勝ち残ってくれた。合唱の内容は「証」と「三月九日」であった。クラス全員がしっかりと声を出しきれいなハーモニーができあがっていた。私はそのとき舞台裏にいたのだが、そこでもしっかりと歌声が届いていた。歌の途中に3年生へのメッセージが入っていて、とても感動的で来年も合唱の発表があってほしいと思った。

2の3「家政Fooooooo！！！！！」。予選1位通過ということもあり、多くの人から期待されていたこの組だが、今回の予餞会出場クラスに共通する「何かのパロディではなく、独創性が強い」という傾向を色濃く持っていた。個人個人の演技力さながら、ドラマの見どころだけを切り抜いたようなテンポ、かつストーリー性のある構成は、まさに〝劇〟だった。

迫真の演技で熱いメッセージを届ける劇

2の5「バレリーナツリーFeat、ギャング…！」。何とも珍しいことに、2の6と、「劇中の花言葉の登場」において重複したわけだが、「諦めきれぬ愛」に重きをおいたストーリー展開は、「愛情に絆されるのも偶には良いものだ」と、3年生の先輩に新鮮な感情を吹き込んだ。また、そこに上手く笑いの要素が組み込まれており、とても綺麗にバランスがとれていた。

2の8「とび出せ！どうぶつの森へ」。この劇は、いろんな動物が狭い園内から自由を求めて抜け出すというストーリー。個々の動物たちが個性を生かして助け合い、そして最後はあのライオンも仲間になって、団長を倒したシーンは感動的だった。また、手の込んでいる衣装やダンスには、思わず劇に魅入ってしまう迫力があった。だが、中でも一番インパクトがあったのはチャーリー。（なんだ、あの生物！）皆が感動するシーンでも、何故か彼がいると笑ってしまう、不思議なオーラがあった。

2の6「The day〝Rose〟from Angel」。この劇は記憶喪失になってしまった友達を天使の力を借りて救う物語である。この中で花言葉の意味は、「黄色いバラ」→「嫉妬」、「青いバラ」→「奇跡」と「神の祝福」である。演技力や、ショッカーの踊りがすごかった。また、ワンピースのくだり、途中の漫才も泣けてくるぐらい面白かった。だが、一番印象に残っているキャラクターはやはり天使である。衣装も演技力も目を引いた。とても素晴らしい劇であった。

他にも3分間スピーチでは、漫才や歌が披露された。ギターの登場には、おそらくみな驚いたことだろう。先生の劇も忘れてはいけない。リアルな西高生活をテーマにした劇に、頷いている先輩も数多く見られた。（猪飼・水野）

先輩によせて

先輩には、本当に多くのモノをもらった。目に見えるモノから、目に見えないモノまで。だから、大切なモノをもらった分、いや、それ以上に、我々後輩の気持ちを受け取って頂けたなら、とても嬉しい。

（み）

裏方の仕事を含め準備はほとんど滞りなく進み、結果として例年以上の予餞会となった。これは何よりも先輩の為だけのものであるから、楽しんでいただけたなら幸いだ。来年は自分が招待される番、さらなる発展を期待。（い）

先輩たちは私たちのお手本で、西高祭では先頭をきって私たちを引っ張っていってくれた。私が3年生になったときそんな先輩になりたいなぁと思った。最後まであきらめずに勉強して、第一志望に合格してください。応援してます☆

（に）

アートフェスタ　愛知県高等学校文化祭　入選

今回、タイトル『創造性』という作品で、見事入選された2の8の森佑美子さんを突撃インタビュー！それを、会話形式でお伝えしていきます。

【インタビュアー：水野（以下：み）、アンサー：森さん（以下：も）、その場にいた美術部員：佳穂ちゃん（以下：か）】

み「入選、おめでとうございます！今の気持ちは？」

も「実は、背景まで手が回らなくて無理矢理出しちゃったんですけど…。」

み「ん？ってことは、未完成…？」

も「うむ。」

なんと、あの作品はまだ未完成！見た人は、気づきましたか？

み「では、今回の作品で、一番気に入っているところは？」

も「・・・。」

（ここでなかなか返答が返ってこない。思いつかなかったらしい森さん、佳穂ちゃんに聞く。）

か「んー、全部じゃない？」

も「べた褒めだね（笑）あっ、例のスパゲッティみたいなの！クロワッサンにも見えるやつがお気に入りです。」

どうやら、おいしいものを想像して描いていた様子。

み「周りの反応はどうですか？」

か「称賛の声。」

み「七五三の声！？」

も「えー、ひどい（笑）」

み「すみません（笑）では、こうすればもっとよかったのに、と思うところは？」

も「完成してないところだよっっ！」

み「絵、描くこと。好きですか？」

も「嫌いだったらやってないよっっ！」

森さんの鋭いツッコミが。なぜかツッコまれる、私。

み「苦労した点とか、ありました？」

も「とにかく時間がなかったです。一つ一つ細かく書きすぎて…。特に魚は一匹3時間もかかったので大変でした。また、夏に描いていたので、暑くて死ぬかと思いました。死にませんでした。生きてりゃいいことあるんだね。」

み「なんか、普段とキャラが違いますが…。」

も「いいんだよ、もう。」

半年という、とても長い時間をかけて創られた作品。確かに初めて見た時は、3Dの魚にびっくりしました。なお、死にかけた森さんは今も健在です！

み「次に、作品を通して伝えたかったことは？」

も「溢れ出る創造性…？」

か「みなぎる、とか。」

も「そう、それそれ。」

中心から溢れ出していた魚達は、創造性だったとは！

み「では、美術部として何か言いたいことはありますか？」

も「誰か入部して。」

か「来年6人は入らないと廃部になるんで。」

も「兼部でもいいから…！」

か「名前だけでもいいから…！」

ということで、美術部は部員募集中です。興味を持ったあなたは是非☆

み「他に言いたいことは？」

か「ほら、全国に向けて！」

み「天国！？」

も「長崎行ったら、カステラって・・・。花より団子ですか（笑）」

み「はいっ。では、最後に！」

も「完成してないので、遠くから見てください！！」

急な取材に快く答えてくれた森さんに感謝。そして、改めて…。入選、おめでとうございます！（水野真理子）

「創造性」

作

東日本大震災から、我々は何を学んだのだろうか。1つ目は、「想定にとらわれるな！」である。東日本大震災発生当時、日本ではM（マグニチュード）9以上の超巨大地震は起こり得ないとされてきた（それに異議を唱える学者も少数ながら存在したが）。多くの日本国民も、それを信じ切っていた。しかし、M9は現実に起こってしまった。彼らにとって、それは「想定外」であった。また被災者の中には、まず指定避難所に避難したものの、そのすぐそばまで「想定外」の津波が襲ってきて、さらに内陸の避難所に避難せねばならなかった人や、或いはその途中で津波に呑まれ、命を落とした人も多い。自然現象は、時に人間の想定を遥かに超えることがある。発生が危惧されている南海トラフ巨大地震の規模は、最大M9・1と試算されたが、実際はこれを超えるかもしれない。このような想定を超える事態が発生した場合、我々はその時点でできる最善のことをすべきである。防災に杞憂など存在しないのだ。2つ目は、「政府を疑え！」である。福島第一原発事故後、政府の役人は、「直ちに健康に影響はない」という言葉を多用した。裏を返せば、長期的には影響が出る、ということである。しかし、事故が収束する見通しは未だ立っておらず、汚染食物は今後長期間にわたって流通する可能性がある。何年間も「直ちに影響はない」と言われ続け、それを信じて汚染食物を食べ続けた人は、当然のことだが健康に影響が出るだろう。加えて、事故後に年間被曝線量限度が引き上げられた。そもそも放射線には、これ以下では絶対に安全だという基準がない。自然放射線や、X線写真でさえ少ないほうがよいのである。30歳未満の若者や妊婦は特に影響を受けやすく、危険である。日本の次世代を担う彼らを、政府は見殺しにしている――。このような政府を一体、誰が信用するのだろうか。その後、昨年の衆院総選挙で民主党が大敗し、自民・公明両党が再び与党となった。しかし自民党は未だに原発推進路線であり、脱原発路線の公明党も自民党に引きずられている。日本はこのまま破滅の道を辿るのか――。

（伊藤健斗）

計量器・OA機器
事務・学用品・書籍
紙徳商店
一宮市萩原町萩原
TEL 68－0034
69－4121
FAX 69－2466

Rice Creation

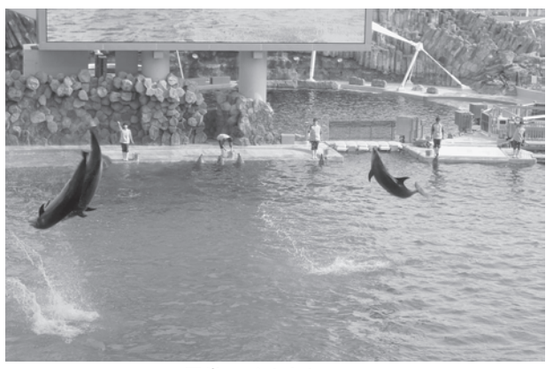
共和食品グループ
本部　共和食品工業株式会社
愛知県一宮市萩原町萩原183番地　TEL(0586)69-0001
給食事業　株式会社共和フードサービス　TEL(0586)69-0001
米穀精米事業　山水米本舗株式会社　TEL(0586)69-0002
米穀小売事業　共和食品株式会社　TEL(0586)69-0002
インターネット直販事業　吟米本舗株式会社　TEL(052)220-3188
米穀卸事業　株式会社名古屋食糧　TEL(052)581-0351
食品加工事業　エイティエイト株式会社　TEL(0586)69-7777
米飯事業　エイティエイトジャパン株式会社　TEL(0561)67-8800
おにぎり店頭販売事業　株式会社多司　TEL(052)380-0881
営業所／東京・静岡・石川・大阪

購買で
飲み物を販売しています
自販機の利用もよろしく
笑顔のそばに
MEGMILK
メグミルク君島
46－3362

郷土歴史 70

楽しく回って知識の海へ

今回の郷土歴史の舞台は名古屋港水族館。僕ら2年生にとっては最後の取材だった。年に一度は名古屋港水族館に行っている僕には見慣れた風景だったが、何度見ても入館直後に見えるイルカの巨大水槽の迫力は凄い。これを見ると、名古屋港水族館に来た実感が湧いてくる。名古屋港水族館に入ってすぐ、シャチの置物と写真を撮れるところがあったので、部員全員で記念写真を撮った。係りの人が、撮るとき「はい、シャッチーズ！」と言っていて、思わず笑ってしまった。良い写真が撮れたと思う。名古屋港水族館といえばイルカショー。その人気は今でも健在で、早めに行ったが座って見ることさえ出来なかった。イルカのジャンプ力は凄まじく、何度見ても驚かされる。トレーナーとの息もピッタリで、その練習量を物語っていた。僕もイルカには負けてられない、という気にさせられるショーであった。冬場に行ったことは無かったので毎年やっているかは分からないが、期間限定でペンギンウォークという催しが行われていた。その名の通り、ペンギンが僕らの目の前を歩いて行くという催しだった。いい場所が取れ、本当に目の前を通過して行った。足に羽が触れたのを覚えている。ペンギンウォークはもう終わってしまったが、とても貴重な体験ができた。


圧巻のイルカショー

名古屋港水族館では海の生き物にじかに触れることができる。そこにいるのはウニやナマコ、ヒトデなど、動きの遅い生き物がほとんどだが、よく探すとエビや魚も入っている。手に取るのは中々難しく、必死になってしまうかもしれない。今回の郷土歴史では立ち寄らなかったが、オススメスポットの一つである。あまり知られてはいないが、名古屋港水族館は本州最大の水族館で、日本で初めてアカウミガメの人工孵化、ヒゲペンギン、アデリーペンギンの繁殖、シロイルカの出産、シャチの繁殖に成功した水族館でもある。その歴史は意外に古く、アメリカと共同で、アカウミガメの子供を海に放流し、追跡する研究調査もしている。ただの観光スポットではないのだ。名古屋港水族館の歴史については、名古屋港水族館の周辺の施設である南極観測船ふじ、名古屋海洋博物館、名古屋港ポートビルで詳しく調べることができる。一つ一つ紹介しよう。

ペンギンウォークの様子

南極観測船ふじの中は、ふじが南極を航海していたときの船内が再現されている。所々にマネキンがあったが、顔まで本当にリアルで少し怖いくらいだった。中には図書館もあり、名古屋港の歴史もよく理解できるので興味がある。

名古屋海洋博物館では、名古屋港に運ばれてくる荷物についてとても詳しく展示されている。輸入品に混じった害虫から荷物を持ち上げるシャベルまで。また、名古屋港の歴史についての問題も出る、壁を避けて進むゲームが置いてあり、二人以上で行けば対戦もできる。その日のランキングも出るので、ついつい何度もやってしまった。きっと皆さんもハマると思う。名古屋海洋博物館は、歴史というよりは今の名古屋港について幅広い知識が得られる場所と言えるだろう。

名古屋港ポートビルでは、とても良い眺めが堪能できる。海の眺めも最高だが、ここから名古屋港水族館のイルカショーが見えるので、こちらを見るのもいいかもしれない。お金は掛かるが双眼鏡なら行ってみることを勧める。

名古屋港ポートビルより

もたくさんあるので、色々な景色を見てみてはどうだろう。

この四施設なら、共通観覧券があるので、お得に見て回ることができる。何度行っても楽しめるので、一度行ったこともある人も、まだ一度も行ってない人も、足を運んでみては？

（中道良太）

取材感想

15日ぶりに来てみたら全然変化がなくて驚いた（笑）フウセンウオ（幼体）が可愛すぎてそれしか覚えていないという現実。今頃は成長してごつい見た目になっていると思います。味噌カツうみゃー。

（伊藤）

名古屋港は広いなと、足の疲れからジワジワと感じることができる一日でした。それぐらい私は、海の生物に夢中だったのかなと思いました。特にクラゲは、暗くなった場所で小さな光にあてられている姿が、妖艶でとても綺麗でした。

（斉藤）

僕が一番気に入ったのはなんといっても深海ギャラリー。奇怪な容姿の深海の生物は僕をとても夢中にさせた。その中でも特に気に入ったのはタカアシガニ。足を広げると3メートルにもなるというその大きさに僕は圧倒された。他にも、昔使われていたダイバーの潜水服などが飾られており、その不気味な雰囲気がたまらなかった。

（杉山）

世界の7割は海、そのまた9割は深海、謎だらけの深海もそりゃあそそりますよ。ですが、水族館手前にある、ショッピングモール「ASTY」のアジア料理屋のタピオカも、絶賛です！弾力があってもちもちしていてとてもおいしいです！あのブラックタピオカは粒も大きくてホントに素晴らしいですよ！（渡邊）

名古屋港は久しぶりでした。イルカやペンギンといった動物達との出会いで和んだり、名古屋港名物であるきしめんを食べたり、ふじや名古屋港の歴史を走りながら学んだり。いろんなものを吸収することができて、良かったです。

（水野）

名古屋港水族館で印象的だったことは、「ペンギンよちよちウォーク」です。ちいさなかわいいペンギン達が係員さんについて歩いて最後に雪山にダッシュするところがとってもかわいかったです。（西部）

部全体でまとまってどこへ行くという事自体に初参加だったのですが、非常に楽しかったです。今回のような場所を訪れる度にいつも思うんですが、展示（生）物の大幅な変更が滅多にない水族館（等の施設）であるのに、何度行っても楽しめるのは何故なんでしょうか。水族館に限って言えば、それが海の「深さ」…？

（猪飼）

僕にとって新鮮だったペンギンウォーク。入口の目の前だったので、ペンギンが来た時と、雪の山へ入っていく時、計2回見ることができた。その歩き方や、いろんなものに興味を示していたところがとても可愛かった。

（中道）

名古屋港マスコット

MY SCHOOL DAYS

MY SCHOOL DAYS　濱谷　隆文 先生

私が高校に入学したのは、今から10年ほど前の話。私が中学生の頃には、「高校生になったら学校ではそれなりに勉強をこなし、部活動ではエースとしてチームを引っ張り、かわいい彼女と校門で待ち合わせをして一緒に帰る」という漫画のような生活を思い描いていた。しかし、フタを開けてみたらどうだろう。勉強面では膨大な量の課題をこなすのに一苦労。部活動も周りの上手い人たちに置いていかれ、チームを引っ張っていくどころか足を引っ張ることに。そして、高校3年間で3人の方に告白をするも、全く実ることなく、恋人同士で一緒に帰る人たちを見て、ただうらやましいと思うだけであった。

それでも、高校3年間はとても充実した日々であった。私は三河地区の進学校に入り、勉強は人一倍がんばったと自信を持って言える。西高と同じくらい課題の量は多かったが、毎日の復習は欠かさなかった。予習をし忘れて授業を受けることも時々あったが、やはりそのような授業の時にはまったく頭に入らなかったことを覚えている。どれだけ忙しくても、課題をため込んでしまったら後で大変になるだけということを十分わかっていたから毎日少しずつでも勉強をやろうという思いは強く持っていた。その成果もあってか、テスト前にあまり慌てることはなく、自慢ではないが校内順位も理系ではトップを争える位置にいた。特に得意教科であった数学と化学では、友達に負けると非常に悔しいと感じるように、負けず嫌いな一面もあった。ただ、苦手な古文では、模試で0点をとることも度々あった…。勉強の成果もあってか、私は県内の某国立大学に、センター推薦という形で入ることができた。合格発表の日は2月14日のバレンタインデー。学校で女の子からチョコをもらえずに失意の帰宅をした後のことだった。封筒を開けると合格の二文字が見えたときには発狂しそうになった。うれしかったから、そのときはもうバレンタインのチョコなんてどうでもよくなっていた。

男くさく生きた汗と涙の青春

部活はソフトテニス部に入った。私が1年生の頃はあまり上達もせず、試合に出ても勝てない日々が続いた。2年生になって最高学年となった後は、周りに上手い人が多かったこともあり、団体戦ではちょくちょく県大会にも出場した。東海大会まであと一歩というところまでいったこともあった。ダブルス3本で勝敗が決まる団体戦では、必ず最後に登場し、勝率8割を超えるほど団体戦に強かったというのが、私のちょっとした自慢である。

しかし、3年の最後の総体予選では、次勝てば県大会というところで、私は最後負けてしまった。相手は今まで負けたことのなかった高校だったから負けることはないだろうと思っていた。ほんとに悔しくて涙が止まらなかったのを覚えている。勝負に絶対はない。ちょっとした心の油断が勝負を左右する。そんなことを実感した部活動であった。

2年生、3年生のときは理系物理クラスということもあってか、男子クラスであった。ひとつの教室にむさ苦しい男子が42名、夏場は体育の後の教室が汗臭くて暑い。地獄のようである。でも、やはり男子しかいないクラスは楽しかった。下品な言葉が飛び交うのも男子クラスならではであろう。3年生のときには球技大会で優勝、体育大会も競技部門で優勝するなど、楽しい思い出もたくさんあるクラスであった。当時、同じクラスだった友達とは今でも年に3回ほど会う。決まって焼肉からのボーリングというコースである。会えばたわいもない思い出話に浸ったり、近況を報告したりしている。生涯を通じてつきあえる友達をもつことはとても素晴らしいことである。西高生のみんなにも是非、そんな友達をつくってもらいたいと思っている。

大学に進学してからは、とても充実した日々を送った。硬式テニスを始め、大学3年のときに大会で優勝してからはもうテニス漬けの日々であった。数学ももちろん深い内容まで研究した。修士論文がやり直しになって、危うく卒業できないかもという危機もあった。さて、大学生活は人生の夏休みとも言える。充実した生活にするためにも、大学選びは慎重になってほしい。それがみんなへの私からの願いである。やりたいことを見つけ、夢に向かって突き進んでほしい。

私が高校の教員になりたいと思ったのは、友達に数学を教えていたことがきっかけである。同じクラスの女の子に数学を教えてほしいとよく言われ、教えるたびに「さすがだね、ありがとう」という言葉をくれた。そのときに、人のために何かしてあげられることがあるのはとても気分がいいことなんだな、という気持ちになることができた。ちなみに、教えていた女の子のことも好きになったが、実ることはなかった。それはどうでもいいが、教員になろうと思ったきっかけはそんなささいなことからであるが、思いを強く持っていれば、きっかけなんてなんでもいいと思っている。ちょっとしたきっかけでいいから、興味を持ったことにはどんどんチャレンジしていくといいだろう。教師というのは、生徒の成長に密に関わっていくことが出来るすばらしい職業である。私はまだまだ半人前の教師ではあると思うが、ここでのみんなとの出会いを大切にし、自分の成長のためにも、生徒みんなの成長のためにも、これから努力をし続けたいと思う。「努力は裏切らない」という私のモットーを、これからも大事にして西高生にも伝えていきたい。

MY SCHOOL DAYS

部員急募!!

新聞部員のひとりごと。

皆さんは新聞部にどのようなイメージを持っているだろうか。『暗い』『地味』etc・・・そんなイメージはもう古い！我々新聞部はとても楽しく活動しています。

新聞部がどこでどんな活動をしているのかを知らないという人のために、まず、新聞部の主な活動について説明したい。新聞部の部室は北館2階に位置しています。そこで新聞部は、9月と12月と3月の年に3回と、西高祭期間中に掲示する号外の合わせて4回の新聞を発行しています。新聞を作っていない時期は基本、活動はありません。部室へ来て自習をするなり、そのまま帰宅するなり選択は自由です。また、我々新聞部は春と冬の年に2回、郷土歴史の取材のための小旅行を行っています（今回の新聞にもあるように、1月には名古屋港水族館へと行きました）。

来年度からは勉強に集中したいというあなた、今からでも遅くはありません、まずは北館2階の新聞部部室へとお越しください。

（杉山将大）

西も東もよくわからない！そんな思いだった一年前。今では、少しよくなったはずと思っています。

高いお金を払って買ったワイヤレス機能つきのペンタブで日がなごろごろゴリゴリ描いています。

新聞部は（一年生である自分がこう書くのも生意気ですが）部員全員の仲が良いとても楽しい部活動です。

聞き耳を立てれば、周りは勉強や受験の話をしていることも。部活ももう終わるので、そろそろ勉強始めますか。

部活は楽しいですね～。新聞部は記事を書いたり、遊んだり（？）いつも皆でワイワイやってます！

員弁（イナベ・三重県）のとある公園。物凄く傾斜が厳しく、天然のすべり台になっているそうな。一度は訪れたい。

募金詐欺…許せん。その一方で復興財源を他用途に回していた民主党も同類項。果たして自民は…

集合！って言ってもいつも全員そろわない、そんなゆるい新聞部。でも、記事は真面目に書いてますよ？よく見るとメッセージが…！

キャッチフレーズ決定！

来年度、本校は創立50周年を迎える。この節目に開かれる記念事業のキャッチフレーズを全生徒に募集したところ、数多くの応募が寄せられた。最優秀に選ばれたのは「はばたけ西高！半世紀の伝統と挑戦を胸に」

（1の1　秋山歌澄）

「誇り・自信・夢のある西高へ」

（1の6　林　香那）

の2作。どちらも1年生の作品だ。他にも優秀作4作が選ばれた。そして、最優秀作をもとに決定したキャッチフレーズは

「誇り・自信・夢―西高半世紀の伝統と挑戦を胸に―」となった。

10月に行われる記念式典に向けこれから様々な場面で目にすることとなるだろう。

編集後記

串作で書きそびれたこと。もし浜岡原発が爆発した場合には、政府の言う事など信じず、「直ちに」できるだけ西へ逃げてください！　（け）

この新聞を読んだ人が一人でも笑顔になったら…。それが私の幸せです。　（み）

また、春が近づいてきたので少しは運動しようかなと思いつつ、休日は寝てしまうのだろうなと思いつつ…また発行です！　（さ）

楽しかった部活も、もう終わり…。桜が咲いたら私は受験生。もっと時間がゆっくり流れてくれたらいいのに～。（に）

最近タピオカにはまっています！タピオカは世界を救う！（笑）おいしいタピオカを見つけたら是非新聞部へ！（わ）

次期部長に選ばれました。嘘です。自動的に決まりました。それ以前に来年度は新聞部が存在しているかが問題。（す）

最近、本の栞制作の為だけにラミネーターを買った。お金の無駄遣いではないと信じてる、というか、信じたい。（い）

3年生にとって最後の西高新聞。読んで頂けたら嬉しいです。急募の記事を読んで興味がわいた人はぜひ新聞部へ。（な）

MY SCHOOL DAYS

スピーチ

3の7　森　祐貴さん

最悪の政治形態

「実際のところ、民主主義は最悪の政治形態と言うことが出来る。これまでに試みられてきた民主主義以外のあらゆる政治形態を除けば、だが。」とは第二次世界大戦時の英国首相チャーチルの言葉です。この言葉は今回の僕の弁論のテーマを端的に表しています。つまり、私たちが無条件に信じている民主主義は本当に正しく、良いものなのか？ということです。

民主主義の政治体制というものは広く世界に受け入れられています。先進国はもちろん、多くの発展途上国でもこの政治体制をしており、この政治体制でない国は国際的に非難されています。民主主義は国際社会に入るための必須条件と言えるでしょう。それほど民主主義は正しいものと思われているわけです。

また、民主主義は読んで字のごとく、民が主になってものごとを決める仕組みです。これは一見すると良いもののように思えます。しかし、もし、この決定を下す民が間違っていたのならば、民主主義はとんでもない決定を下すこともあるのです。

例えば、アメリカのイラク戦争の開戦は、最終的には長期にわたる悲惨な戦争を起こし、さらに直接の契機となった大量破壊兵器も発見されなかったというわけのわからない結果になりました。この決定は自国の軍事力を過信し、9・11テロにより冷静さを失ったアメリカ国民によるものだったのではないでしょうか？

他にも彼の悪名高いナチスの独裁政権は、実は当時もっとも民主的と謳われたワイマール憲法の下で、公平な選挙によって誕生したのです。これもヒトラーに煽動されたドイツ国民による決定ではないでしょうか？

このように民が決定を下す民主主義はその決定の責任を国民に求めるのです。

では、今の日本の国民はその責任を果たせているのでしょうか？一千兆円を超す国の借金、原発の再稼働、年金の未払いなど国の問題は山積です。そしてそれらの問題が論じられる時、原因として悪役にされるのは政府や政治家です。確かに彼らにも責任はあるでしょう。しかし、日本は民主主義国家であり国民は選挙という形で政治に関わっています。むしろ忘れてしまっています。これでは日本の国民は民主主義の求める責任を果たせているとは到底言えません。先に述べたようなことすら起こりうるゆゆしき事態です。

これを抜けだし、民主主義の責任を果たすためには国民一人々々が適切な判断をすることが必要でしょう。しかし、それは国の大事に関わる責任のある判断をすることです。国民には可能なことでしょうか？

例えば、増税する、と言われたら誰もが反対すると思います。その理由は物価が高くなると生活が苦しくなるから、というのが大半だと思います。さて、この中に先ほどの理由だけでなく、将来の日本の姿を思い描いた上で判断できた人は居たでしょうか？ほとんど居ないと思います。このように適切な判断をするということは難しいことです。もちろん意識する人が増えればできる人も増えるでしょう。しかしいくら増えても少数派です。多数決で決定を下す民主主義に与える影響はごくわずかです。各人が努力してもテストの平均点が九十点や百点になることはないのと同じです。結局国民が民主主義の責任を果たすことは不可能だと思います。

では、なぜ民主主義は果たせないような責任を国民に求めるのでしょうか？それは、私たちに自由と平等があるからです。各人が自由で平等だから、国のものごとを決めるには大きな力を持つ多数決の原理によって国民に責任を求めるしかないのです。

民主主義はこの理不尽とも言える欠陥を持つという意味で「最悪の政治形態」ですが、自由と平等があるという意味で他のどの政治形態よりもましではあるのです。逆に言えばその程度のものなのです。無条件に信じるようなものではないのです。

みなさんにはこのことを知って欲しいと思います。なぜならみなさんは僕も含め、程なく国の政治に関わるようになる国民になります。その時、知らないよりは幾分考えの奥行きが増すと思うのです。そしてどうするか、民主主義の責任を少しでも果たそうと努力するか、諦めて誰かに責任を投げてしまうか、それとも民主主義に代わる新たな政治形態を探すか、あるいはその他か、それは各人の自由です。

弁論大会　優秀賞